

第33回横浜マリンスポーツセンターカップ

3つのゾーンに分かれて熱戦を展開  
マリンスポーツを制したのは……

今年で33回目を迎えた横浜マリンスポーツセンターカップ。今年はBリーグ・横浜ブルーエースの堀田、山田、蒲谷、久山の4選手と小川マネージャーがゲストとして参加し、試合の間には、出場選手たちと一緒にバスケットをしたり、サインや握手をするなど、楽しい時間を共有。その中で選手たちにとって印象に残ったのは、地元神奈川の東希望ヶ丘でミニバスをやっていた山田選手が、マリンスポーツカップに出場した当時のことを選手たちに伝えたことだった。

男子  
試合は男女各18チームを6チームずつの3グループに分け、それぞれのゾーンで優勝・準優勝を決める方式で行われた。では、決勝の様相を振り返ろう。

〔Aゾーン決勝〕  
戸塚クラブ 56・33 院内MBC

男子順位
★Aゾーン
優勝 戸塚クラブ(神奈川)
準優勝 院内MBC(千葉)
★Bゾーン
優勝 六ツ川クラブ(神奈川)
準優勝 寄居クラブ(埼玉)
★Cゾーン
優勝 南部選抜(神奈川)
準優勝 瀬戸ヶ谷クラブ(神奈川)

女子順位
★Aゾーン
優勝 大正クラブ(神奈川)
準優勝 永田台クラブ(神奈川)
★Bゾーン
優勝 剣崎Wild Boarsクラブ(神奈川)
準優勝 寄居スパークル(埼玉)
★Cゾーン
優勝 みのりクラブスポーツ少年団(茨城)
準優勝 南部選抜(神奈川)

1Qの終盤から⑦神田の活躍で主導権を握ったのは戸塚。2Qに入っても戸塚はオールコートマンツールのディフェンスでプレッシャーをかけ、④川戸(選)の速攻や⑥佐藤、⑧稲川(選)、⑩望月の得点で28・18と前半をリード。一方の院内も試合の終盤、⑥牧野のバスケットカウントや⑧星野のミドルシュート、⑩高橋(選)、⑦佐藤で食らい付くが、流れを変えることができずにタイムアップ。戸塚が逃げ切った。

〔Bゾーン決勝〕  
六ツ川クラブ 45・31 寄居クラブ  
ゾーンの差を縮め、六ツ川はマンツーマンディフェンスで対抗。前半はお互いに譲らない展開で、17・15と寄居がわずかのリードを奪った。しかし、後半の開始早々に六ツ川は、⑨萩原のドリブル突破から④鈴木、⑫佐藤への好アシストで加点し、33・21で3

〔Aゾーン決勝〕  
大正クラブ 74・24 永田台クラブ  
⑤モハマドの高さを生かしたホストプレイで得点を重ね、先に主導権を握ったのは大正。一方の永田台も持ち味のスピードで得点するが、リズムをつかむことができない。さらに大正は④栗原のリバウンドシュート、速攻などで着実に加点。38・13で前半を折り返した。3Qに入っても流れは変わらず、大正は栗原のリバウンドシュート、モハマドのインサイドプレイでリードを広げていき、57・17と永田台を圧倒する。4Qも

Qを終える。寄居も4Qの終盤、オールコートの粘り強いディフェンスでリズムをつかみ、⑩畠山のインサイドプレイで反撃したが、開いた点差を縮めることはできず、六ツ川の勝利となった。

〔Cゾーン決勝〕  
南部選抜 67・33 瀬戸ヶ谷クラブ  
南部選抜の④一百野と瀬戸ヶ谷の⑨内田の両センターの得点でスタート。先行したのは南部選抜。リバウンドからの速いパス回しでリズムに乗り、4分間で14得点。対する瀬戸ヶ谷は、⑤荒武、⑥中村のドライブや外角シュートで応戦するが、10・22と南部選抜に水を空けられてしまう。



女子Cゾーン 優勝  
みのりクラブスポーツ少年団(茨城)



男子Bゾーン 優勝  
六ツ川クラブ(神奈川)



男子Aゾーン 優勝  
戸塚クラブ(神奈川)



女子Bゾーン 優勝  
剣崎Wild Boarsクラブ(神奈川)

女子Aゾーン 優勝  
大正クラブ(神奈川)

期日/H24年8月4日、5日  
会場/横浜市泉スポーツセンターほか

NATIONAL TEAM  
JBL/JBL2  
W LEAGUE  
H LEAGUE  
College  
High school  
Jr. High school  
Mini basketball  
Topics

